

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専門学校 岡山情報ビジネス学院		昭和61年7月26日		学院長 榊原 俊章		〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 ターミナルスクエア内 (電話) 086-224-2336		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人三友学園		昭和61年7月26日		理事長 野津 基弘		〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 ターミナルスクエア内 (電話) 086-224-2336		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士			
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	保育学科 3年制コース		平成12年文部省告示第15号	-			
学科の目的	子どもの心に寄り添い、成長をサポートできる保育士・幼稚園教諭をめざす。保育者としての自覚、人間形成の基礎をつくる大事な時期の子ども達に対して保育をする責任感とやりがい、また保護者や地域に方々への対応ができる人間力も養う。保育や福祉の現場に必要な知識や実践力を修得し、即戦力、可愛がられる人材育成を育成する。							
認定年月日	平成28年2月19日							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	2570時間	1426時間	150時間	450時間	0時間	815時間	
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
60人	58	0人	9人	13人	22人			
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～翌年3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価はS、A、B、C、Dの5段階科目終了時に試験、レポート等で評価			
長期休み	■夏季休業日:8月5日～9月1日 ■冬季休業日:12月23日～翌年2月16日 ■春季休業日:3月2日～3月15日		卒業・進級条件		次の項目を全て満たすこと ・必修90科目、2570時間を履修すること ・卒業基準検定に合格(エクセル検定3級・社会人常識マナー検定3級、幼児体育指導者検定3級のうちいずれか一つ合格)すること ・出席率90%以上 ・科目の成績評価が全てC以上			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、保護者面談、家庭訪問等		課外活動		■課外活動の種類 新入生歓迎会、スポーツ大会、学園祭、ボランティア活動			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 社会福祉法人P. P. P、社会福祉法人 岡北福祉会 京山保育園、社会福祉法人 祥陽会よろら保育園、学校法人のぞみ会しいのみ幼稚園、社会福祉法人梅香会浦田保育園、社会福祉法人 中野社会福祉協会 かんた保育園、社会福祉法人ももどの学園、学校法人らく楽学園 認定こども園 らく楽寺井幼稚園、企業主導型保育施設イトンちどり保育園 ほか ■就職指導内容 担任教師とキャリアサポート室が連携し学生の進路選択のサポートを行う。併せて就職対策講座により教養・面接対策等を行う。 ■卒業生数 27 人 ■就職希望者数 27 人 ■就職者数 26 人 ■就職率 : 96.2 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 96.2 % ■その他  (平成 30 年度卒業者に関する 令和1年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報)			
				資格・検定名		種	受験者数	合格者数
				保育士		①	27人	24人
				幼稚園教諭2種		①	27人	24人
				Excel検定3級		③	27人	19人
				秘書検定3級		③	27人	19人
				文章作成・読解能力検定4級以上		③	27人	18人
				幼児体育指導者検定3級		③	25人	25人
				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)				
				■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				
中途退学の現状	■中途退学者 4名 平成30年4月1日時点において、在学者73名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者69名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 病気、経済的理由、進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 定期ガイダンスの実施、クラス行事・学校行事への参加、家庭との連携等		■中退率 5.4%					

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: <input checked="" type="radio"/>有・無</p> <p>※有の場合、制度内容を記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OIC特別奨学金制度(本校入学者を対象に実施)</li> <li>・後期授業料免除制度(本校入学後、所定の条件を満たす者を対象に実施)</li> </ul> <p>■専門実践教育訓練給付: <input checked="" type="radio"/>給付対象 <input type="radio"/>非給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: <input checked="" type="radio"/>有・無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p> <p><a href="https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf">https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf</a></p>
当該学科のホームページURL	URL: <a href="https://www.oic-ok.ac.jp/course/child_care/">https://www.oic-ok.ac.jp/course/child_care/</a>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科が考える教育に関する基本方針が、今の現場が求めるニーズに合っているかどうかを確認し、その中で、足りていない点において、そこを強化するための助言を編成委員の方よりいただく。また、保育の現場で通用する社会人として今の保育に関する情勢や、保護者対応、子育て支援方法を知り、今後の授業における授業内容の改善、新たな科目の開設などを行い、他の学校との差別化をはかる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

保育士・幼稚園教諭・社会福祉分野における人材育成のために、保育園・幼稚園・社会福祉分野関係者および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて、教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラムの等の開設・改善・工夫等を行う。第1回委員会では、前期学科運営状況の報告を行い各委員より改善意見やご提案をいただき具体的な取り組み方策の検討案の提示を行う。その後、後期学科運営で検討案の実施を行い、第2回委員会にて実施状況の報告と次年度に向けた新たな教育課程の提示を行い各委員より再度意見や助言をいただき次年度の具体的な教育課程の最終案を決定し承認をいただく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
榊原 俊章	専門学校 岡山情報ビジネス学院 学院長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	
高岡 信吾	専門学校 岡山情報ビジネス学院 常務理事	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	
難波 芳子	専門学校 岡山情報ビジネス学院 教務第1課 課長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	
土居 直美	専門学校 岡山情報ビジネス学院 保育学科 学科長代理	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	
赤木 美子	一般社団法人チカク 代表理事	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	①
岡崎 多美子	学校法人 朝日学園 朝日塾幼稚園 園長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
出口 太郎	社会福祉法人祥陽会 よしうら保育園 園長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年9月6日 17:00～18:00

第2回 平成31年1月25日 17:00～18:15

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

<委員会意見より現在実施中項目>

・文章を書くことのみならず、保護者対応なども含めた対応力において国語力は必要であると感じている。強化していったほしい部分である。

⇒昨年度からの意見も踏まえ、平成30年度から国語をカリキュラムに導入する。(文章作成能力検定を4級は全員受験、3級は希望者受験する。)

・コミュニケーション能力の向上や積極性の向上など、自ら行動していくことでしか感じられないこともあるとともに視野も広げる機会を持ってほしい。

⇒1年次夏季ボランティアはもちろん、冬季などもボランティアの参加を推進する。

<委員会意見より具体的内容検討中項目>

・対話力、国語力の向上から保護者や上司ともコミュニケーションが円滑に図れるようになることで、不安の軽減や人間関係の構築がスムーズにできることで保育、教育業界への就職希望者や継続力を持ってほしい。

⇒昨年度からのご意見も踏まえ、今年度より国語をカリキュラム導入した。学生からも改めて学べたことで自信につながったとの声も聞けた。また、文章読解・作成能力検定は4級を全員受験し希望者において3級の受験も促した。来年度にむけては、全員3級受験を目指せるレベルに向上できるよう指導していくことを検討している。

・非認知能力の獲得を目指していくことで、保育業界のみならず社会で生き抜く社会人基礎力も向上を目指してほしい。

⇒昨年度に引き続き、ボランティアへの積極的参加はもちろん、園の見学等も一年次から積極的に取り入れるよう指導に取り組む。また、専門分野に限らず外部ともかかわりの機会も積極的に持てるよう検討していく。

## 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

「保育園指定保育士養成施設の指定及び運営の基本について」に準じた認可保育園・認定子ども園(保育所型・幼保連携型)の中で、本校の教育方針を理解していただき保育士に必要な専門知識の習得だけではなく具体的に保育現場で求められる人材育成に即した実習が体験でき、かつ岡山県保育士養成協議会において登録された保育士としての実践的な実習ができる保育園を選定している。

(状況に応じて各学生の適性・希望等を総合的に判断し決定していく)

### (2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習科目担当の教師が「保育士養成協議会」で出された「保育所実習の手引き」に基づく実習内容を実習前に事前に実習園と確認、調整を行い、実習内容、学生の学修成果指標等について定める。実習期間中に担当教師が実習園を訪問し、学生の実習態度、行動、状況を把握するとともに実習担当者もしくは園長と情報交換等の連携をしながら実習授業運営を行う。実習終了時には、実習園実習担当者及び園長による学生の学修成果の評価と実習日誌をふまえ、担当教員が成績評価、単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育実習 I	実際の保育現場で、乳幼児教育及び生活指導の学習を体験することによって保育への理解を深め、精神や資質の向上を目的とする	社会福祉法人淳厚会 かわい保育園 社会福祉法人岡山千鳥福祉会 紅陽台ちどり保育園 社会福祉法人広和福祉会 富田保育園 社会福祉法人宮川福祉会 とみやまこども園 等 全23園
保育実習 II	実際の保育現場で、乳幼児教育及び生活指導の学習を体験することによって保育への理解を深め、精神や資質の向上を目的とする	岡山市立 鹿田保育園 岡山市立 高島保育園 備前市立 日生保育園 社会福祉法人つくし福祉会 和井田保育園 社会福祉法人明光会 敬親保育園 玉野市八浜認定こども園 社会福祉法人梅香会 ゆりかご保育園 等 全22園
保育実習 I (施設)	施設実習を通し、これまで学習してきた理論・知識・技術を実践に応用し、援助の理論と実践に関して理解を深めていく	社会福祉法人P.P.P. P.P.P.ヒマワリ! 福田 社会福祉法人三穂の園 住倉学園 社会福祉法人備作恵済会 若松園 社会福祉法人みその児童福祉会 岡山聖園子供の家 社会福祉法人南野育成園 南野育成園 社会福祉法人ももぞの学園 ももぞの福祉園 等 全13施設
教育実習 前期	実際の現場で実習することにより、理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につけることを目的とする。	岡山市立 芳田幼稚園 岡山市立 平福幼稚園 倉敷市立 茶屋町西幼稚園 赤磐市立 山陽西幼稚園 学校法人みその学園 岡山聖園幼稚園 学校法人淳心学院 海星幼稚園 等 全23園
教育実習 後期	実際の現場で実習することにより、理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につけることを目的とする。	学校法人のぞみ学園 のぞみベルナデッタ幼稚園 岡山市立 幡多幼稚園 岡山市立 平津幼稚園 学校法人御國学園 御国幼稚園 岡山市立 吉備西幼稚園 倉敷市立 菅生幼稚園 等 全21園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

保育学科教員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて、学内研修・学外研修・自己啓発・その他研修に分類し、研修規定に基づいて年間研修計画をたて、研修受講を行う。また、研修受講後は、研修報告書の作成と他関係者に対する内部研修の実施を必須とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「保育実習委員会研修」(連携企業等: 岡山県保育士養成協議会 )

期間: 平成31年2月18日(月) 対象: 土居 直美

内容:

岡山には数多くの保育士養成校があり、保育士の資質向上や質の高い現場実習を行うために養成校同士の共通理解、実習の調整などを図る必要があるため保育士養成協議会という組織があり、本校も所属している。今回の研修では、各養成校で実習における授業方法や、運営の仕方など、意見交換を行う。よりよい実習を行うため、また質の高い保育士を育成するため、実習における問題点や改善点などを養成校の中で共有し、協議を重ねていく研修である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「キャリア・サポーター養成講座」(連携企業等: 一般社団法人 職業教育・キャリア教育財団 )

期間: 平成31年1月8日(火)～1月10日(木) 対象: 土居 直美、川西 ともみ

内容:

一般社団法人 職業教育・キャリア教育財団は、全国の専修学校各種学校総連合会の外部団体として本校においても連携し、教員の質の向上に努めている、本校もこの財団と連携しており、教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、教職員のキャリア・サポート・マインドを養うことを目的としたものである。学生自身の「キャリア(働く意味、進路選択、仕事人生等)」を自発的に設計・選択・決定できるように支援する上で省職員が取るべき態度や姿勢を学ぶ研修であった。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「保育実習委員会研修」(連携企業等: 岡山県保育士養成協議会 )

期間: 令和元年10月16日(水) 対象: 土居 直美

内容:

岡山には数多くの保育士養成校があり、保育士の資質向上や質の高い現場実習を行うために養成校同士の共通理解、実習の調整などを図る必要があるため保育士養成協議会という組織があり、本校も所属している。今回の研修では、各養成校で実習における授業方法や、運営の仕方など、意見交換を行う。よりよい実習を行うため、また質の高い保育士を育成するため、実習における問題点や改善点などを養成校の中で共有し、協議を重ねていく研修である

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教師研修」(連携企業等: 株式会社 PHP研究所 )

期間: 令和元年9月28日(土) 対象: 土居 直美、伊丹 稔博、高橋 正太

内容:

本校の「社会人対応力」を育む「心の推進プロジェクト」に取り組む中で、株式会社 PHP研究所と連携している。本校は創立当初から心豊かな人材の育成に力を入れ、「心の教育」にも積極的に取り組んだ結果、1997年に日本初の「心の教育モデル校」の指定も受けた。PHPの編集長に來校していただき、教師に対して学生が社会人対応力を身に付けるためにはどのようにすべきか等、今までの経験から講演をしていただき、本校の心の教育に役立てるための教師研修である。

研修名「新任教員基礎研修」(連携企業等: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会)

期間: 令和2年3月(予定) 対象: 土居 直美、伊丹 稔博、高橋 正太

内容:

一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修は全国専門学校研究会に所属している専門学校の新任教員研修である。学生とのコミュニケーションの取り方、授業の展開方法を学ぶ。また、実践として模擬授業を行い評価、改善を行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の順守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

担任制、卒業生の社内での評価などは、良い評価をいただいたので、今後も退学防止などの課題に取り組んでいく。特に、教師の力量による差が、退学、就職などすべてに影響するため、その差を解消できるように教員研修を継続する。また、非常勤教師の採用も行い、学生サービスの充実を図る。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
宮崎 栄一	株式会社 創明コンサルティング・ブレイン 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等 委員
仲田 錠二	株式会社 ユナイテッドサーブ 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	卒業生・ 企業等委員
松本 武司	有限会社シルク 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	PTA
河原 秀明	医療法人創和会 しげい病院 地域連携部 地域連携入退院支援・医療社会福祉課 課長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等 委員
近藤 正晃	株式会社 ホテルグランヴィア岡山 総務部総務人事課 課長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等 委員
岡崎 多美子	学校法人 朝日学園 朝日塾幼稚園園長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等 委員
磯谷 賢二	リコージャパン株式会社 中国事業本部岡山支社 アシスタントマネー	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	卒業生・ 企業等委員
片山 雅文	株式会社 コーセイカン 制作チーム 部長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等 委員
石橋 史恵	ウェブクリエイティブ株式会社 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等 委員
高松 聖	株式会社 スカイリンク 岡山制作部長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等 委員
高木 孝征	自衛隊香川地方協力本部東讃区隊長	令和元年7月5日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等 委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ( )

<https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/info/02--4.pdf>

公表時期: 令和元年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対応を行い、説明責任を果たす。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト、プライバシーポリシー(個人情報保護法)
(2)各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラム
(3)教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教育への取組
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎、施設紹介、学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7)学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8)学校の財務	財務状況
(9)学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL:<http://www.oic-ok.ac.jp>



授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 1年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ビジネス実務Ⅰ	社会人としてふさわしいマナーであったり、言葉遣いや身だしなみなど、第一線で活躍人材になるべく、人間力も高めていく。	1通	60	4	○	△		○	○			
○			健康科学	「健康」の概念・運動の効果・原則などについて知識や関心を高め、スポーツ活動・生涯スポーツの重要性について学ぶ。	1後	15	1	○			○	○			
○			生涯スポーツ	バレーボールやバドミントンなどの技能の向上を目標としながら、スポーツ文化が形成されてきた歴史的・社会的背景について理解を深める。	1後	45	1	△			○	○		○	
○			情報処理入門Ⅰ	エクセル基礎を学び、簡単なワークシートの作成とデータ入力を行えるようにする。表計算・ビジネス図表に関する基礎を身につける。	1前	30	2	△			○	○		○	
○			ワード演習	ワード基礎を学び、文書作成、資料作成、写真やイラストなどを挿絵する技術を身につける。	1後	30	2	△	○		○	○			
○			日本国憲法	憲法とは何か（憲法の意味・近代憲法の原則・憲法規範の特質・現代憲法への展開）、日本国憲法全体の主要事項の内容を理解する。	1後	30	2	○			○	○			
○			幼児と音楽表現	声楽の基本と、読譜力をつけることを主とする。ピアノ、声楽などに必要な音楽理論の基礎を学ぶ。感性を育む音楽鑑賞についても学ぶ。	1後	15	1	△			○	○		○	
○			教育心理学	教育現場で必要となりうる心理学の基本概念と基礎知識を学ぶ。子どもの経験と学習の過程を理解し、保育の実践につなげていく。	1前	15	1	○			○	○			
○			幼児の心理学	幼児の発達にかかわる心理学の基礎を習得し、発達を捉える視点を理解する。教育や発達に即した援助の基本となる幼児への理解を深める。	1前	15	1	○			○	○			
○			健康（指導法）	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それらにかかわる環境について理解を深める。	1後	15	1	○			○	○		○	
合計				科目	単位時間(時間)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 1年生																
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			人間関係 (指導法)	子どもの人間関係の形成を援助し、促進するための知識を獲得する。自立心を育て、人と関わる力を養うことについて学習する。	1 後	15	1	○			○			○		
○			教育原理	教育の本質や目的、関連する法令や行政についての基本的理解を養う。また、指導要録や学級経営の方法や意義について考察を深めて行く。	1 後	30	2	○			○		○			
○			造形表現 (指導法)	授業では幼児の造形の発達理論と幼児に適した実践的な造形表現の研究を基に、作品制作を行う(コラージュなど)	1 後	15	1	○		△	○				○	
○			音楽表現 (指導法)	この授業では、領域「表現」の主に「音楽表現」の分野における、子どもの発達と発達段階に応じた「あそび」について理解するとともに、保育者に必要な柔軟性に富んだ発想力・表現力を育成する。	1 前	15	1		○		○				○	
○			環境(指導 法)	子どもにとっての人的・物的環境、自然環境などがどのようなものか、また子どもの興味・関心を促し環境構成の在り方を学ぶ。	1 後	15	1	○	△			○			○	
○			言葉(指導 法)	経験したことや考えたことなどを表現し、相手の話すことばを聞くこととする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことばで表現する力を養う。	1 後	15	1	○			○				○	
○			児童文化	児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握させ、実践的な児童文化の理解者になれることを目的とする。	1 前	30	2	○			○				○	
○			幼児と言葉	子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇などの児童文化財に親しむ体験を理解する。子どもの経験や様々な表現活動を児童文化財等と結びつけ、子どもの生活と遊びが豊かに展開するための技術を習得する。	1 後	15	1	○			○				○	
○			幼児と人間関係	子どもの「人とかかわる力」を育てることの重要性と、領域「人間関係」に基づく幼稚園・保育所の役割を理解する。領域「人間関係」に関するねらいと内容に関する専門的知識を身につけ、保育実践へとつなげる。	1	15	1	○					○			
合計					科目			単位時間(時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 1年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			幼児と環境	領域「環境」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付ける。	1	15	1	○						○	
○			社会福祉	社会福祉の概念や歴史、生活問題、わが国の政策動向の変化と支援をめぐる今日的課題、社会福祉政策等、社会福祉全般に関わる理解を深める。	1通	30	2	○			○				○
○			保育原理	保育の対象となる乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などの概観を通して、保育に関する基礎的な知識を習得する。	1通	30	2	○			○		○		
○			社会的養護 I	養護の歴史、また児童福祉法改正後の児童養護のあり方、問題点に焦点をあて、家庭養護と社会的養護との相互関係を学習する。	1通	30	2	○			○				○
○			劇あそび	子どもの持つ豊かな感性や表現する力を引き出すための指導力・援助法を体得する事を目標とする。自分の身体を確認し、身体運動による表現の特質を知り、イメージと動きの関わりを体得し、創造性を豊かにすることを目標とする。	1前	15	1	△			○	○			○
○			教育課程総論	教育課程の意義とその編成、指導計画の作成について具体的に理解する。	1前	30	2	○			○		○		
○			教育方法論	保育者として必要な保育指導の本質を学び、幼稚園教育要領及び保育所保育指針に基づきながら、指導のねらいや指導の方法などの知識を深めていく。	1後	30	2	○			○				○
○			教職概論	昨今の様々な教育（保育）課題について理解を深め、いま求められる教師（指導者）像について考える。	1通	30	2	○			○		○		
○			保育内容総論	保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容を理解するとともに、保育の全体的な全体構造を理解する。	1後	15	1	○			○		○		
合計				科目	単位時間(時間)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 1年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			音楽 I	声楽の基本と、読譜力をつけることを主とする。ピアノ、声楽などに必要な音楽理論の基礎を学ぶ。感性を育む音楽鑑賞も合わせて学ぶ。	1通	60	2	△		○	○			○	
○			造形表現	幼児の造形表現の発達段階と身体的特徴、幼児教育における美術表現技法を学ぶ。表現技法を組み合わせ、実際に作品を制作する。	1通	30	2	○		△	○			○	
○			図画工作 I	造形・色彩研究・デザインなどの学習を通して、幼児への造形教育に必要とされる基礎的な理論・技法・表現法の習得を行う。	1通	30	2	△		○	○			○	
○			身体表現 I-1	遊びをとおしてリズム感や創造力、表現力を身につける。歌ったり踊ったりしながら技術を磨いていく。	1前	15	1	△		○	○			○	
○			身体表現 I-2	遊びをとおしてリズム感や創造力、表現力を身につける。歌ったり踊ったりしながら技術を磨いていく。	1後	15	1	△		○	○			○	
○			保育教養 I	保育者として、保育に関わる情勢や保護者や地域の方との関わり方等を実践を通して学ぶ。	1後	15	1	△		○	○			○	
○			ペン字	保育園などでは、連絡帳など手書きをすることが日常的である。そのために、読みやすい文字で丁寧に書くことを学ぶ。	1前	15	1	△		○	○				○
○			国語	基本的な文章表現のルールを理解し、言葉を用いて豊かに表現したり、理解する能力を身に付ける。文章の構造を意識しながら読む力を身に付け、自分の考えをわかりやすく伝える。	1前	30	2	○				○			○
○			食育 I	授業を通して、栄養や調理方法だけでなく食べ物への感謝の気持ち・食事のマナー・家族のつながり・こころとからだの健康のこと・地球の環境のことも考える	1後	15	1	○	△		○				○
○			家政基礎技術	基礎的な家政技術を学び、保育に応用できる技能を身につけると共に家庭的な雰囲気学ぶ。	1後	15	1	△		○	○				○
合計															
					科目	単位	(時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 1年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育所実習指導 I	保育に関する基礎的な知識や技能を基盤として、これらを総合的に関連づける力と、保育実践にこれらの知識や技能を応用する力を養う。	1後	30	2	○	△		○	○			
	○		ゲーム概論	面白さ・評価される物を、ゲームの歴史やグループワークを通して学習する。	2後	16	1	○	△		○	○			
	○		医療事務	保険制度のしくみを理解、保険請求業務の点数算定を学ぶ	2後	16	1	△	○		○	○			
	○		FP	FPについての基礎知識を学ぶ。ライフプランニングと資金計画、不動産、相続・事業承継、等々	2後	16	1	○			○	○			
	○		レイアウトデザイン	チラシや名刺などデザインするための基礎的な知識とセンスを身につける。	2後	16	1	△	○		○	○			
	○		HP動画	HPや動画を制作するための基礎的な知識やセンスを身につける。	2後	16	1				○	○			
	○		表現	幼児教育における5領域「表現」に基づき、身体を使った表現や造形表現活動を学ぶ。また、その活動を通して表現力を身に付ける。	2後	16	1	△	○		○	○			
	○		ロボット制御	人型のロボットを題材にプログラミングを行い、プログラムの思考力を養う。	2後	16	1	△	○		○	○			
	○		Excel実務	実務の場面を想定したExcelの使用方法について学習する。	2後	16	1	△	○		○	○			
	○		一般知能	数的推理・判断推理・資料解釈を論理的な思考から、解答する力を答練を通じて身につける	2後	16	1				○	○			
合計				科目		単位	( 時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 1年生																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		健康管理	人体の仕組みと代表的な病気の予防について理解し、健康管理の基礎を学ぶ。	2後	16	1	○			○		○			
	○		ロジカルシンキング	グループワークやディスカッションを通じて、論理的思考に用いられるフレームワーク（考え方）を学ぶ。	2後	16	1	△	○		○		○			
	○		ビジネス英語	ビジネスの場で簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付ける。	2後	16	1	○	△		○				○	
	○		ペン字上級	1年生で学んだ美しい文字を書くことの大切さをより深く理解する。ひらがな、カタカナの成り立ち、漢字基本点画、部首、筆順の解説により、バランスのとれた字形（行書体も含む）を学ぶ。また、筆ペンの使用も学ぶ。	2後	16	1	△	○		○			○		
	○		応用文章技能	文章を書くための素材を集めるポイントや文章の構成などを講義するとともに、毎回、テーマに即した文章を書くこと（添削あり）を通じて、実践的な文章技能の習得を目指す。	2後	16	1		○		○		○			
	○		フラワーアレンジメント	ブーケ、ブートニア、ヘッドフラワー、会場装花を製作する。	2後	16	1	△	○		○			○		
合計					39科目	58単位										(930時間)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

- (留意事項)
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
  - 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 2年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネス実務Ⅱ	社会人としてふさわしいマナーであったり、言葉遣いや身だしなみなど、第一線で活躍人材になるべく、人間力も高めていく。	2通	60	4	○	△		○		○		
○			英会話Ⅰ	英語の基礎的な単語、文法を学び、会話にすぐ使える基本的な構文を覚え、実際の会話に取り入れることで、英語表現の幅を広げることを目指す。	2前	30	2	○			○		○		
○			音楽(器楽・声楽)	音楽の基本と、読譜力をつけることを主とする。ピアノ、声楽などに必要な音楽理論の基礎を学ぶ。感性を育む音楽鑑賞もあわせて学ぶ。	2後	15	1	△		○	○			○	
○			図画工作	造形・色彩研究・デザインなどの学習を通して、幼児への造形教育に必要とされる基礎的な理論・技法・表現法を習得する。	2後	15	1	△		○	○		○		
○			幼児体育	乳幼児期の心身の発育発達を具体的に捉え、幼児期の「基本運動」を中心とした運動経験の重要性について理解する。	2後	15	1	○		△	○			○	
○			児童家庭福祉	子どものいる家庭の問題を概観し、権利擁護や子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した福祉施策を通して、児童家庭福祉の現状を理解する。	2前	30	2	○			○		○		
○			社会的養護内容	社会的養護における子どもの権利擁護や保育士をはじめとした児童福祉専門職の倫理について学ぶ。	2後	15	1	○			○			○	
○			社会的養護内容Ⅱ	各施設等が個々の養護ニーズを踏まえ、自立支援計画に基づいて、児童の家族や地域と連携して日々実践している児童養護の実際について具体的に事例を通して、児童福祉専門職に何が求められているかを学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
○			家庭支援論	保育所のもつ子育て支援を重要な社会的役割として理解する。家族の変容と子どもを取り巻く社会環境をみつめ、適切な相談、助言のあり方を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
合計				科目	単位時間(時間)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 2年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			障害児保育	様々な子どもの障害について理解し、子どもの中にはさまざまな障害により養育者や保育者とのかかわりが困難になってしまうことが生じることを理解する。	2 前	30	2	○			○		○		
○			子どもの食と栄養	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。子どもの成長段階における食生活について理解する。	2 前	30	2	○			○				○
○			子どもの保健 I-I	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの発育、発達と保険について理解する。	2 通	30	2	○			○		○		
○			言葉 II	言葉の障害とその環境要因、言語発達の個人差を学ぶ。また、幼児にとって望ましい言語環境、絵本や紙芝居の効果、集団保育の影響について学ぶ。	2 前	15	1	○			○				○
○			発達心理学	保育実践にかかわる心理学の基礎知識を学ぶ。子どもの発達を理解し、子どもが人との相互的にかかわりで成長していくことを理解する。	2 後	30	2	○			○		○		
○			教育相談	教育相談の意義と原則について学び、保護者支援の基本を理解する。	2 後	30	2	○			○		○		
○			保育相談支援	保育相談支援の意義と原則について学び、保護者支援の基本を理解する。これらを基本に保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。	2 後	15	1	○	△		○		○		
○			言語表現	保育者として言語表現技術指導の基礎的知識及び必要な技術を身に付け、実際に活用できるようにする。	2 前	15	1	○			○				○
○			乳児保育	乳児の成長・発達と発達課題、保育の内容、また実践事例を通し、保育の方法を学習する。	2 前	30	2	○			○		○		
合計				科目	単位時間(時間)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 2年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			教育実習 (前期)	幼児や教師と生活を共にすることで、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、同時に教師の仕事について具体的に理解することを目的とする。	2後	90	2			○	○	○		○	
○			教育実習事前事後指導	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解し、教育実習に対する意欲や課題意識を高めることを目的とする。		15	1	○							
○			保育実習Ⅰ (保育所)	保育の実践を体験し、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を確立していくために行う。	2前	90	2			○	○	○		○	
○			保育実習事前事後指導Ⅰ (保育所)	保育実習 (保育) の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。また実習の自己評価や総括を行い、新たな課題や目標を明確にする。	2前	15	1	○			○	○			
○			保育所実習指導Ⅱ	保育に関する基礎的な知識や技能を基盤として、これらを総合的に関連づける力と、保育実践にこれらの知識や技能を応用する力を養う。	2前	15	1	○	△		○	○			
○			音楽Ⅱ	声楽の基本と、読譜力をつけることを主とする。ピアノ、声楽などに必要な音楽理論の基礎を学ぶ。感性を育む音楽鑑賞も合わせて学ぶ	2通	60	2	△		○	○			○	
○			図画工作Ⅱ	幼児への造形教育に必要とされる基礎的な理論・技法・表現法の習得し、具体的な保育実践へとつなげていく。	2後	15	1	△		○	○		○		
○			パソコン演習	就職活動に向けての自分のアピールポイントを相手に伝わりやすい形でパワーポイントで作成する。	2通	30	2	△	○		○		○		
○			介護概論	介護に必要な専門的知識や技術を理解、習得する。	2通	30	2	△		○	○	△	○		
合計				科目	単位時間 (時間)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 2年生																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			身体表現Ⅱ-1	音楽に合わせて体を動かすことを通してリズム感や創造力、表現力を身に付ける。また、オペレッタの制作を体験的に学習することで現場につながる保育者の表現力や指導力・構成力磨いていく。	2前	15	1	△		○	○		○			
○			身体表現Ⅱ-2	音楽に合わせて体を動かすことを通してリズム感や創造力、表現力を身に付ける。また、オペレッタの制作を体験的に学習することで現場につながる保育者の表現力や指導力・構成力磨いていく。	2後	15	1	△		○	○		○			
○			保育教養Ⅱ	保育者として、保育に関わる情勢や保護者や地域の方との関わり方等を実践を通して学ぶ。	2後	15	1	○	△		○		○			
○			接遇演習Ⅰ	冠婚葬祭を始めとし、お茶の出し方、和菓子のいただき方、洋食のマナー、和食のマナー、名刺の由来について学習し、社会人としてのビジネスマナーを習得する。	2後	15	1	△	○		○		○			
○			食育Ⅱ	授業を通して、栄養や調理方法だけでなく食べ物への感謝の気持ち・食事のマナー・家族のつながり・こころとからだの健康のこと・地球の環境のことも考える	2通	30	2	○	△		○		○			
○			親学	親として、すべきことを学び、さらに人としての成長を目指し、人間力を高めるライフデザインを学ぶ。	2後	15	1	○			○		○			
○			教育実習指導	教育実習を前に、教育実習を行う目的を明確にし、幼稚園教諭として必要な知識や技術、実習に臨み態度や心構えを学ぶ。	2通	30	2	○			○		○			
合計					33科目	50単位										(840時間)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 3年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネス実務Ⅲ	社会人としてふさわしいマナーであったり、言葉遣いや身だしなみなど、第一線で活躍人材になるべく、人間力も高めていく。	3通	60	4	○	△		○		○		
○			子どもの保健Ⅰ-2	子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴を知り、子どもの疾病の予防と適切な対応、衛生管理や安全対策を学ぶ。	3通	30	2	○			○		○		
○			子どもの保健Ⅱ	身近な怪我や疾患、事故に対して適切な応急処置及び救急処置に対応できる技能を習得する。	3後	15	1	△		○	○			○	
○			青年心理学	青年期の発達課題について学び、誕生から青年期に至るまでの発達の連続性を見通して保育を実践する知識を獲得する。	3前	30	2	○			○		○		
○			相談援助	保育士として必要な相談援助技術の方法及び内容について、人権の尊重、自立支援、秘密保持等の基本姿勢について理解する。	3後	15	1	○			○			○	
○			保育・教職実践演習	改めて自分自身の課題を意識し、必要に応じて自分自身の不足している知識や技能等を補い、その向上を図ることを目的とする。	3後	30	2	○			○		○		
	○		教育実習（後期）	教育実習（前期）の振り返りを基に、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、同時に教師の仕事について具体的に理解することを目的とする。	3後	90	2			○	○		○		○
	○		保育実習Ⅰ（施設）	施設実習を通して出会う人々と直接関わりながら、理論・知識・技術を実践に応用し、援助の理論と実践に関して理解を深め、発展させていく。	3前	90	2			○	○		○		○
合計				科目	単位時間（時間）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 3年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰの反省を踏まえ、保育の実践を体験し、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を確立していく。	3前	90	2			○	○	○		○	
○			保育実習事前事後指導Ⅰ(施設)	保育実習(施設)の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。また、実習の自己評価や総括を行い、新たな課題や目標を明確にする。	3	15	1	○							
○			保育実習事前事後指導Ⅱ	保育実習Ⅰの反省を踏まえ自己課題を明確にし、既習の教科の内容やその関連性を踏まえ保育実践力を培う。	3前	15	1	○			○		○		
○			施設実習指導	保育士として施設実習へ行く意義と目的を知り、福祉・保育の担い手となるために、人間観・保育観・福祉観を築きあげ施設の現状と役割を理解する。	3前	30	2	○	△		○		○		
○			リトミック	音楽活動を通して心や身体の発達を促す教育法であるリトミックの基礎を身に着ける。音楽に合わせて体を動かしながら表現する楽しさを学ぶ。	3	20	1			○					
○			プレゼンテーション技法	卒業研究・実社会において必要なプレゼンテーション技法を学ぶ。	3前	30	2	△			○	○		○	
○			音楽Ⅲ	音楽の基本と、読譜力をつけることを主とする。ピアノ、音楽などに必要な音楽理論の基礎を学ぶ。感性を育む音楽鑑賞もあわせて学ぶ。	3通	70	2	△			○	○		○	
○			保育実技	指導案の立案、遊びの実践等、保育に関する実技について学び実践する。	3通	40	1	△			○	○		○	
○			卒業制作	3年間の集大成として、これまで学んできた知識、技術を統合し、保育現場で通用する表現力、企画力、実践力等を身につける。	3通	130	4				○	○		○	
合計					科目			単位時間(時間)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科 3年制コース) 令和元年度 3年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業研究	各自の興味に基づいて、文献レポートを行い、皆で討論しながら問題意識を深める。その過程において、各自の卒業論文テーマを絞り込む。	3通	90	2	△	○		○		○		
○			接遇演習Ⅲ	冠婚葬祭を始めとし、お茶の出し方、和菓子のいただき方、洋食のマナー、和食のマナー、名刺の由来について学習し、社会人としてのビジネスマナーを習得する。	3後	20	1	△		○	○		○		
○			保育教養Ⅲ	保育者として、保育に関わる情勢や保護者や地域の方との関わり方等を実践を通して学ぶ。	3通	40	2	△		○	○		○		
合計					科目 19科目		39単位 (800時間)								
					総科目 90科目		総時間 2570時間 (143単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
次の項目をすべて充たすこと ・必修90科目、2570時間を履修すること ・卒業基準検定を合格（エクセル検定3級・社会人常識マナー検定3級、幼児体育指導者検定3級のうちいずれか一つ）すること ・出席率90%以上 ・科目の成績評価が全てC以上		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。